

米景気鈍化を示唆する指標相次ぎリスクオンに



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米雇用環境のひっ迫度合いの緩和続く

米労働省が3日に発表した10月の米雇用統計は、労働市場のひっ迫度合いが緩和に向かいつつあることを示す内容となりました。10月の非農業部門雇用者数は前月比15.0万人増と、9月の同29.7万人増から増加幅が大きく縮小し、8月と9月の同雇用者数の伸びも合計で10.1万人下方修正されました。10月の平均時給は前年同月比4.1%増と9月の同4.3%増から伸びが減速し（右上図）、前月比ベースも0.2%増と昨年2月以来の低い伸びとなりました。

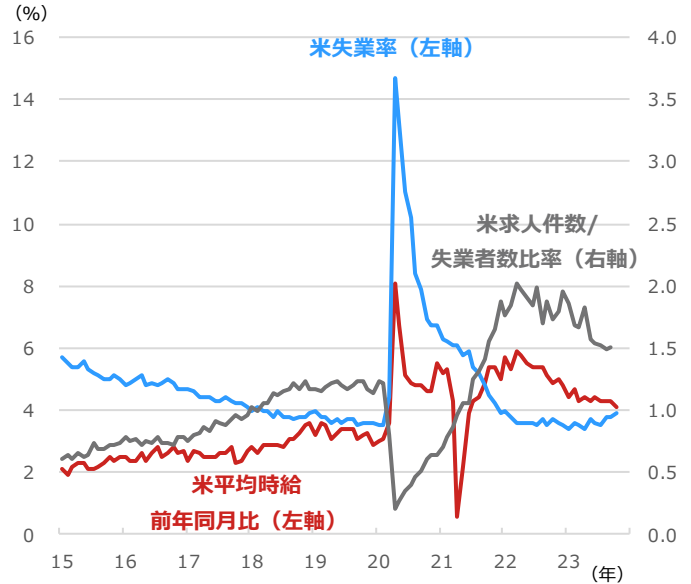
また、10月の失業率は3.9%（9月は3.8%）と上昇し、米賃金と連動性が高い9月の「米求人件数/失業者数比率」も1.50とピークの2.01から鈍化基調にあります（同図）。米雇用環境の軟化は、今後も米賃金上昇圧力が持続的に弱まっていく可能性を示唆しているといえます。

ポイント② 市場はリスクオンのトレンドに転換へ

同日発表された10月の米ISM（サブライマネジメント協会）非製造業景況感指数も51.8と9月の53.6から低下し、内訳項目の「雇用」も50.2と同53.4から低下するなど、米製造業に続き米非製造業の景況感も減速してきました。

ここにきて米国の景気や労働市場の鈍化を示唆する指標が相次いでいることで、市場ではFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げが終了したとの見方が強まっています。一時5%の大台を上回った米10年国債利回りは足元で4.57%にまで低下した半面、S&P500種株価指数が急反発するなど、市場はリスクオンのトレンドに転換しつつあります（右下図）。米経済の減速基調が目立ってきたことを考えると、米長期金利の上昇はピークアウトした可能性があり、米国株の重荷が一つ解消されつつあるといえそうです。

米平均時給・米失業率・米求人件数/失業者数比率



期間：（米求人件数/失業者数比率）2015年1月～2023年9月、月次（その他）2015年1月～2023年10月、月次
 ・米求人件数/失業者数比率は失業者1人当たり何件の求人があるかを示す
 ・米求人件数はJOLTS（米雇用動態調査）の数値を用いた
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米10年国債利回り



期間：2023年4月3日～2023年11月3日、日次
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。